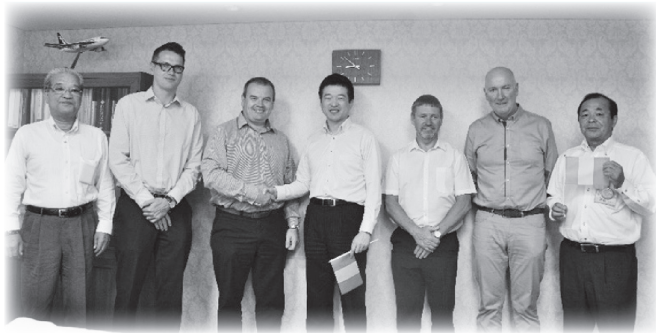


アイルランドオリンピック委員会および パラリンピック委員会役員が市長を表敬訪問

7月14日(日)～18日(木)の5日間、アイルランド自転車競技選手団による事前キャンプが行われ、18日(木)には、アイルランドオリンピック委員会およびパラリンピック委員会役員ほか、自転車競技連盟関係者が山本市長を表敬訪問しました。

オリンピック委員会役員のリアム・ハービソン氏、パラリンピック委員会役員のデニス・トゥーメイ氏、監督のブライアン・ニュージェント氏、チームスタッフのアラン・ニーナン氏の4名が市長室を訪れ、市長との懇談の中で、益田市での事前キャンプを高く評価し、今年秋のトレーニングキャンプおよび来年の本大会前の事前キャンプについて市長と意見交換を行いました。



ブライアン・ニュージェント氏(左から2人目)、リアム・ハービソン氏(左から3人目)、アラン・ニーナン氏(右から2人目)、デニス・トゥーメイ氏(右から3人目)

今回の事前
キャンプの様子は、
広報ますだ10月号で
お伝えします！



中世益田講座「益田氏 VS 吉見氏」(全7回)

第6回 交易への高い関心

【問い合わせ先】市文化財課 ☎ 31-0623

大永3(1523)年、吉見頼興は琉球(沖縄県)との交易上重要な拠点である飴肥(宮崎県)の領主

一方、吉見氏は益田氏と違い、内陸部の領主であったため、交易に関与しようとするには不利な条件にありました。しかし、交易への関心は決して益田氏にも勝るとも劣りません。

考古学的にも中須東原・西原遺跡、沖手遺跡、今市遺跡などの発掘によって、このことは裏付けられ、さまざまな新事実が明らかになりつつあります。

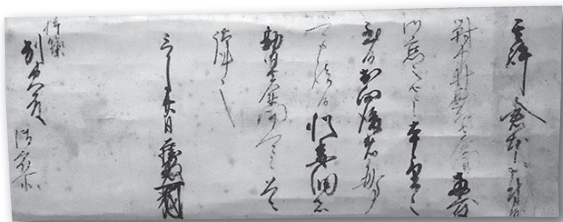
「海洋領主的性格」を持つと指摘されています。

益田氏と吉見氏は交易への関心も高い次元で拮抗していました。

益田氏については、朝鮮半島の虎皮や蝦夷地(北海道)産の昆布・数の子を手入していたこと、直属の水軍や三隅湊の大賀氏といった船持ち領主を支配下に置いていたこと、山間部の材木や鋳物がその交易品であること、杵築(出雲市大社町)に特権商人的存在を置き、宗像大社(福岡県)大宮司家、対馬(長崎県)の宗氏、平戸(同)の松浦氏などと協力関係を築いて交易を円滑に進めようとしたことなどが明らかにされています。これらのことから、交易に積極的に関与し、経済力を蓄えていたとして「海洋領主的性格」を持つと指摘されています。

島津豊州家に連絡をとり、琉球との交易への協力を取り付けています。頼興の子正頼は、大内氏の山口没落に際して、毛利氏より先に山口に入り、大内氏が所持していた日本国王印や通信符(前者は中国との、後者は朝鮮王朝との交易に必要)を押収したと考えられています。また、正頼は対馬の宗氏、糸島半島(福岡県)の原田氏と関係を深めており、益田氏同様に九州の領主と提携し、交易における協力関係を築いていたと推測されます。

高津川下流域や長門国阿武郡(山口県北部)をめぐる益田氏と吉見氏の対立も、こうした交易を有利に進める拠点の争奪と見ることが出来ます。



益田藤兼書状(三月二十日/杵築別火氏宛)。戦国時代の益田氏が、日本海交易の要衝である杵築(出雲市大社町)に特権商人的存在を置いていたことがわかる。